

落書き・貼り紙防止と都市景観に関する研究

名城大学

○濱田 将

名城大学

正会員

藤田晃弘

木曾興業（株）

権田泰之

1. 本研究の背景と目的

ここ数年、住民が抱えるまちの問題として、落書き・貼り紙問題が大きな関心と呼ぶようになってきている。街路灯や歩道橋などの公共物や商店のシャッターなどへの落書き・貼り紙は、まちの景観を乱し、人々に不快感を与える、そのまま放置しておくとは別の落書き・貼り紙が増えていく、人々に「このまちは監視が行き届いていない」といった心理を働かせ、それがエスカレートしていくと別の軽犯罪を引き起こす、といった3つの影響を及ぼしていると考えられる。ということは、犯罪者にとって犯罪を起こしやすい環境を作っていることにもつながる。事実、全国で把握されている軽犯罪件数は1998年に約4万6000件だったものが2003年には約19万6000件にもなっている。

落書き等が社会に及ぼす影響は大きく、ただ、その場の落書き・貼り紙を無くしていくだけでは根本的な解決にはならない。そこで、落書き防止塗料、貼り紙防止シートの性能についても検証し、本当に落書き・貼り紙のないまちづくりを考え、進めていくことを本研究の目的とする。

2. 現在の状況

本研究では名古屋市栄にある大津通周辺をモデル地区として、現状調査をしている。大津通は、商店や百貨店、商業ビルが立ち並ぶ、名古屋有数の目抜き通りである。まちにはショーウィンドウや色鮮やかな看板があり、クリスマスの季節になるとイルミネーションでライトアップされており、きれいな世界が広がっている。しかし、そんなまちにある信号機の支柱や変圧器などは落書き・貼り紙があふれ、されていないものの方が少ないという状況である。また、午後6時過ぎになり、次々と商店のシャッターが下りてくると、乱雑な落書きが姿を現してくる。

名古屋市では「安心・安全で快適なまちづくりなごや条例」が制定され、落書き犯に対して必要な措

置を講ずるよう命令できるが、まだ適用された例はない。

写真-1 は商店のシャッターに落書きされたもの、写真-2 は商店の壁に落書きされたもの、写真-3 は商店の壁への貼り紙、写真-4 は歩道橋へ貼り紙されたものである。

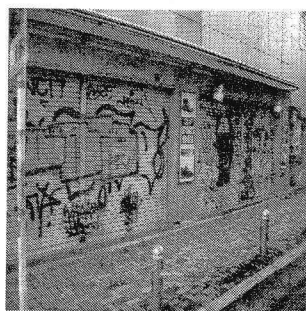


写真-1

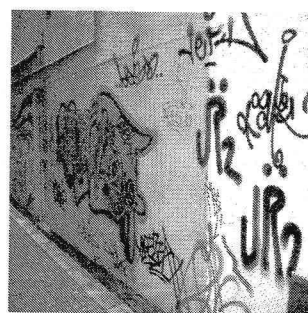


写真-2

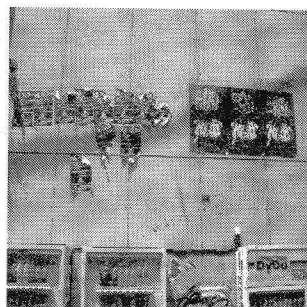


写真-3



写真-4

3. 調査

モデル地区にある南大津通商店街振興組合にご協力いただき、街路灯にされている落書き・貼り紙を一掃した。現在は、塗り替え後の状況を定期的に調査している。このような取り組みがまちから落書き等を無くしていくことにつながるのである。

実際に落書き等がされた場合、どのような対処をするのか同振興組合と検討している。

街路灯を塗り替える際、一般的な塗料だけでなく、落書きの除去が簡単に行える落書き防止塗料、貼り紙が付着しないようになっている貼り紙防止シートを施工した。これらの塗料、シートについて実験を

行い性能について検証する。

写真-5 は塗装前、写真-6 は塗装 1 週間後、写真-7 は塗装 1 ヶ月後、写真-8 は塗装 2 ヶ月後の状況である。塗り替え後 2 ヶ月間という短い期間ではあるが、落書き・貼り紙はされていない。落書き等を無くし、きれいにしたことにより、落書き等をしにくくなったのではないかと考えられる。

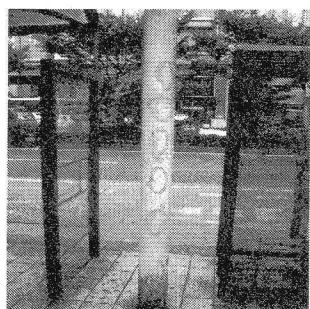


写真-5



写真-6

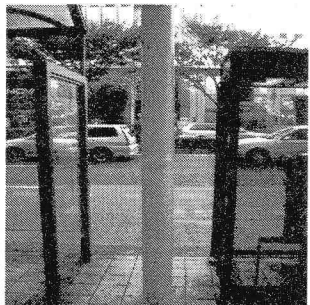


写真-7

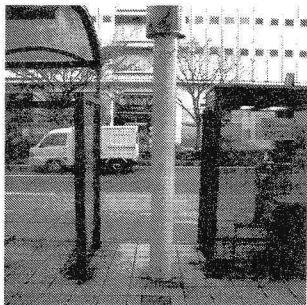


写真-8

4. 実験方法

まちの中で見ることができる落書き・貼り紙の多くは、コンクリートの壁や店のシャッター、街路灯などにされている。そこで実験では、コンクリート板とアルミ板を用いて、落書き防止塗料 5 社、落書き防止シート 1 社、貼り紙防止シート 1 社の性能について検証する。また、市販されている塗料との比較検討をする。一般的にシャッターや街路灯に使用されている素材がアルミであるため、実験ではアルミ板を用いている。コンクリート板、アルミ板はともに 30cm 四方のものを用いる。各塗料メーカーの下塗り塗料、中塗り塗料、上塗り塗料を使用し、上塗り後 2 日間養生する。上塗り塗料養生後、スプレーで落書きをする。落書きしてから 10 日後、20 日後、30 日後に取り除くことができるかどうかの検証をする。

落書きを取り除く方法は、ウェスに市販のラッカ

ーシンナー、塗料用シンナーをしみこませ、落書きを簡単に除去できるかどうかの検証をする。また、専用除去剤がある塗料に関しては、市販のラッカーシンナーで簡単に除去できない場合、専用除去剤で除去できるかどうかの検証をする。

貼り紙防止シートは、粘着力の異なるものを使用し、貼ることができるのか、簡単に取り除くことができるのか検証をする。

5. 塗料・シートの性能、特長

落書き防止塗料は、表面硬度が高く、撥水・撥油性を有しているため、スプレーなどで汚染されてもはじきを生じ簡単に除去できる。耐久性、耐候性に優れ、はけやローラーで簡単に施工できる。クリアー塗料なので、下塗り塗料の色調を損なうことなく、自由な色彩を選ぶことができる。

貼り紙防止シートは、表面に高品質のシリコーン加工がされ、なおかつエンボス加工することにより、違法チラシやガムテープなどが付着しない構造になっている。PET シートを使用することにより、曲面施工などにも柔軟に対応する。塗料のような養生が必要でないため、短期間で施工することができ、施工後すぐに性能を発揮する。

6. まとめ

落書き・貼り紙をまちから一掃することは簡単なことではなく、一度消してもまたすぐに落書き等がされ、イタチごっこに終わってしまうことが多い。地域住民が集まり、落書きを消す活動を行っているところもあるが、資金面や人手の確保などの制約があり、思うように活動できていないことが多い。このような活動に対して支援が行われている市もあるが、まだまだ少ないというのが現状である。

落書き・貼り紙問題は地域の問題であり、地域住民が「自分たちのまちは自分たちの手で守る」といった意識をより一層向上させ、地道に活動の輪を広げていく必要がある。

最後に本研究にご協力頂いたナトコ(株)、エスケー化研(株)、関西ペイント販売(株)、中国塗料(株)、大塚化学(株)、(有)モビックス、中部ニチレキ工事(株)に感謝の意を表します。